

第3回 JSSM セキュリティ公開討論会（2009. 2. 28）アンケート結果

アンケート回答総数 35名（一般参加 23名 学会員 12名）

Q1. 第I部「公開研究会」

（1）個人情報保護研究会「社会保障カード(仮称)と国民ID ～海外事例に学ぶ～」

- さらなる研究を進める重要なテーマであると感じた。
- 技術的な仕組みで安全性を担保し、国民の利便性・行政の効率化のため推進戴きたい。
- 社会保障に限定せず、一元的な国民番号を付与し、統一的に実現できる仕組みが、早期に確立することが望ましいと考える。
- 国民IDについて余り知識がなかったので、この説明で良く理解できた。
- 国民IDの必要性と問題点が明解です。
- 未確定な状況の中で事例を交えてわかり易く、また今後の示唆を与える発表であった。
- エストニアのワンストップサービスには利便性を感じるが、リスクを感じる人もいると思う。画一的な導入ではなく、ドイツ方式とオーストリア方式の個人選択とするなど全体設計が必要と考える。
- 国民IDのようにボリュームのあるID管理では、重複するIDが問題となるので、ユニーク性を担保するシステムが必要だと思います。
- 海外事例は参考になりました。
- 実現性・運用可能性の論点が不足している。
- 社会保険庁の問題が解決しないと信用されないのでは。
- 個々人にカードを配布すること事体がリスクになるのではないかと考えております。配布時や配布準備段階でのトラブル、受取った国民の意識付けなど、多くの問題をはらむように思いました。
- オーストリアの事例は興味深い。
- 海外事例で発生しているインシデント・判例などを知りたい。
- 国民IDの検討で欠けてはならない要素として個人認証の在り方があります。国民IDについて一人一人の情報利用の利便性が高まると同時に情報セキュリティのリスクも同様に高まります。正当なIDを持つ人をセキュリティ・経済性・利便性のどの点からも認証できる個人の長期記録に基づく認証方式をJSSMとして、Key Issueとして取り上げるべき、と考えます。

（2）ITリスク学研究会「ITリスク学確立に向けて」

- ITリスク学としてのフレーム、その中でリスクコミュニケーションの重要性を感じました。リスクに関しては、医療分野他複数での研究活動もあるので、全体フレームまで進められるのではと思いました。
- ITリスクへの対応としてのリスクコミュニケーションの重要性を感じた。

- IT リスク学の活動についてのコミュニケーション、情報発信が強化され、広く“IT リスク”を知る人が多くなる事を望んでおります。
- リスクコミュニケーションの必要は理解できるが、リスク分析・リスク対策には、既に組織内の議論・合意形成がなされているはずなので、「IT リスク学」までが本当に必要か、短時間ではわからない。
- 捉えにくいリスクについて、如何に要領よく取組むべきか良くわかり、大変参考になりました。
- 組織内でリスクマネジメントを担当しているが、リスクコミュニケーションの重要性が良く理解でき、大変参考になりました。
- IT リスクとその周辺、特にリスクコミュニケーションという整理の仕方が興味深かったです。
- IT リスク学という新しい学問を始めて知りました。3つの方法論がありますが、やはり組織・会社または業界でフレームワークを決めて、グループ・部署単位でリスク値を洗い出すことが重要だと思いました。
- IT リスク学の基礎となる学問の中に心理学・社会学も含まれており、ご説明の中にも心理学的な内容もあったので、興味深かった。
- リスクの中で IT に特化した「IT リスク学」は面白く拝聴した。特にリスク受容とリスク低減について研究して欲しい。
- グローバル化の中での IT リスク分析をやって欲しい。
- IT リスクに対する世間の認識が（報道との影響からか？）弱小、局所的にしか捉えられていないと感じております。IT に特徴的なリスクは十分に調べられ、啓発していくことが重要であることを改めて認識しました。
- 非常に興味のある分野なので、今後も成果発表や知識共有が行われる事を期待。
- 有益なお話ありがとうございました。ただ、概念では難しい部分も多く、具体例などを併せていただければと思いました。

(3) 危機管理研究会「新型インフルエンザの対策と問題点」

- 火葬など、かなり踏み込んだ研究まで進められていると感じた。
- パンデミックについての講演は多いが、BSC4 設備や遺体の扱いについての視点は初めてで、勉強になった。
- 大変興味深い内容でした。政府のリーダーシップがこの国では非常に弱く、このことが危機の原因とも言えるのではないのでしょうか。質問の時間を取ってもらいたかったです。
- 問題点が良く整理されており、興味深い内容だった。
- 江戸から明治に神田お玉ヶ池に天然痘の研究室があったと聞いております。レベル 4 の施設は地下や島に建設して、研究するなどの方が良いと思いました。
- 学会の報告らしからぬ発表で、大変面白かった。
- IT に関する話を期待していたが、IT 対策以前の問題が山積みで、解決にはリスクコミュニケーションが不可欠ではないかと感じた。

(4) 関西支部研究会「食品業界におけるリスクとイノベーション」

- 廃棄と高齢品の品揃え/特売等、リスクとトレードオフに関して、さらに研究を進めていただきたいと感じました。また、食品におけるトレーサビリティの厳しさを感じた次第です。
- 業態の違いによる認識相違が重要。
- 業界を取巻くグローバル、社会、法律、経済、消費者、法的要求などがわかりやすく説明されました。
- 非常に良くまとまった発表だと思う。参考になる。
- 食品業界のリスクの多様性と対応の難しさが理解できました。
- 食品業界は、広告・宣伝に IT を活用していると思います。Web によるアンケートが増えています。今後は、食品の情報を簡単に入力できるバーコードやタグによるユビキタスネットワークによる食品情報のオープン化が、安全・安心のイノベーションになると思います。
- セキュリティ・マネジメント学会が、幅広い業界で活動されていることが理解できた。事業活動におけるリスク管理の実例的な発表も学会の活動が実務に直結していることを理解するのに有効だと感じた。
- イノベーションをどう実現しようとしていますか。
- 業務上付き合いのない業界の話は、日頃意識しない視点があり興味深い。今後も色々な業界の話が聞けると良いと考える。
- 生活の本質的な部分に対するリスクのお話をありがとうございました。工業製品の品質管理との違いを非常に良く理解できました。

Q2. 第Ⅱ部「公開討論会」

(1) 基調講演1「金融機関の電子決済への取組みと情報セキュリティ対策の考え方」

- 電子決済・電子マネーは今後更に導入が進められ、様々な形態が考えられると思います。学会の研究テーマ（取組むべき課題）として、進めたらどうかと思います。一つの研究会として。
- とてもよい課題を説明いただいたと思います。
- 新たな金融システムを考えねばならないかも知れない。
- 銀行システムから電子マネーの流通に及び、広範囲なテーマを説明いただき、概観できました。
- IC カード（チップ）の脆弱性とその対策については新しい課題です。電子マネーシステムとしてのリスクが不明。
- 非常に興味深いお話をありがとうございます。時間が少なく残念でした。
- 大変多くの資料が示され、勉強になりました。一部だけでも公開していただけるとありがたいと思います。
- 今のところ電子マネーは量的に日銀券に影響ないが、政府紙幣の話がサブプライム対策で出てきており、電子マネーの政府紙幣版が出ると何でもありのようになってしまう。

- 普段聞けない貴重な講演ありがとうございました。セキュリティ、特に金融システムにおけるあるべき要件をご教授いただければ幸いです。
- 電子マネーの現状が良くわかりました。今後コンビニ、代引き等での電子マネーは、どのようなようになっていくか、その安全性は充分なのかが解るとありがたい。
- 密度が濃く、できればもう少し詳しく聞きたかったです。
- 電子決済・電子マネーの近年の動向が分り、興味深かったです。ありがとうございました。
- 金融分野からの情報発信に感謝いたします。今後もよろしく願いいたします。
- 電子決済の現時点での位置付けが理解できました。仕事上で IC カード不良によく接しますが、原因が良く掴めず、もう少し信頼性の向上が望まれます。

(2) 基調講演2「電子決済における法制度と利用者保護の在り方」

- 可視性とプライバシーの重要性が良く理解できた。
- Web サービスに対して、利用者側の対応へのアドバイス（松竹梅の対応を逆に活用する、利用者主体の確保）が新しい提案としてあった。
- 表示された金額ではなく、その履歴が重要となるであろう。サブシグナル的側面は、いわゆる POS の延長であり、あり得ることではないと思います。
- 電子マネーの問題、可視性と約款について非常に参考になりました。英語の 3 文字表現を使うな！ Good
- 非常に分りやすく、現在の状況から課題まで理解できる講演でした。法的規制ではなく、技術的な対応で行える仕組みの必要性が印象的でした。
- 法的側面から興味深いお話ありがとうございました。
- 最近、身分証（職員証や学生証）とプリペイドを融合させたサービスが多く見受けられますが、このような場合先生のご指摘になったプライバシーの問題が拡大していくのではないかと思います。
- 個人情報とのリンクは、ビジネスとして広がるとされる。どう問題が生じないように整理するかである。
- とても参考になりました。
 1. デジタルフォレンジックについて
 2. モニタリングの具体的な成功事例について
 3. リスクマネジメントの具体的な例について

(3) パネルディスカッション「電子決済の利便性と安全性管理」

- テーマの範囲をもう少し小さく限定したほうが深い議論ができた。
- なかなか面白かった。
- 非常に参考になりました。各演者の発表資料を入手できるのでしょうか。
- 幅広い観点から議論があり、勉強になった。政府の動きなどもわかり参考になりました。
- 通常は知ることができない情報を知ることができ、とても参考になった。

- 電子マネーの可視性が討論にありましたが、貨幣価値とデジタルの関係についても今後話を聞きたい。例えば、電子貨幣を重みに変える技術等。
- 興味深い議論ばかりで、あっという間に終了時間となってしまいました。
- すべての機能を統合したカードではなく、幾つかの累計されたサービスに分けたカードを数枚所持する方が、利用者にとって選択肢が広がり、リスクが低減されると思われる。例えば、本人確認が必要なサービスと、匿名サービスのカードを分けるなどが考えられる。
- 様々な立場からのご意見を伺うことができ、とても興味深いディスカッションでした。現状の把握に加え、今後の方向性や課題についても専門家のご意見を伺い、とても勉強になりました。実務を通じてより考えを広げて行く良い機会となりました。ありがとうございました。

Q3. その他、本討論会全体を通じて、特に印象に残った論点や、ご意見等。

- 今後もセキュリティに関する身近で重要であるが、あまりマスコミに取り上げられていないテーマに関して、討論や情報発信について取り上げて頂きたいと思います。
- 1発表あたりの時間を90分位にして欲しい。
- やはり、可視性と利便性・安全性
- 利便性と安全性のトレードオフ。個人（利用者）から見た可視性とオンライン時代のプライバシー保護の在り方。
- 個人情報の保護に関して「個人情報の自己管理権」をテーマに、議論を深めてほしい。
- プレゼンのハンドアウトが欲しい。HP等で公開を検討してほしい。
- 朝の始まりが早すぎる。
- 色々な発表や意見を聞くことができ、良かったです。また、電子的に管理したり、利用したりすることは手書きですべてを管理するよりも良いと思うけど、同時に個人情報の保護などの問題が出てきてしまい、どこをどう管理していけば問題点を最小にでき、多くの利用者が納得できるのか考えると、どんどん難しくなるなあと感じました。問題点を最小にするには、様々な利用者の意見や考え方を取り入れることが不可欠だと改めて思いました。
- 電マネーがテーマということもあり、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 便利になるほど依存性が高まり、現金を持ち歩かなくなる人も増えると思う。そうなった時、故障や紛失等により、家に帰れなくなる等のことがあり得るのではないかと。
- 新しい問題の所在が良く分かり、啓発されました。講演のスライドを配布頂けると嬉しいです（あるいは、Web サイトでのPDFでの公開など）。今後の研究の発展をお祈り申し上げます。

以上